

ウ シート式磁気録音機の設置

へき地学校にシート式磁気録音機を設置する。

(具体的内容は、「へき地教育の振興」の項参照)

エ プログラムセンターの設置

地区教育センターに併置し、専門のプログラマーを1センター5名配置することを期待する。

オ 高等学校地域視聴覚ライブラリーの設置

事業名	事業主体	昭和40～45年度		昭和46～50年度	
		事業内容・事業量	事業費	事業内容・事業量	事業費
高等学校地域視聴覚ライブラリー設置	県	県内5地域(県北・県南・会津・石城・相双)に設置する。 1ライブラリーの規模 敷地 660㎡(200坪) 建坪 330㎡(100坪) 経費 1ライブラリー経費 土地購入費 5,280千円 建築費 10,000千円 設備費 10,000千円 全経費 25,280×5	千円 126,400		

(3) 進路指導の充実

〔施策設定の理由〕

ア 中学校卒業時に進路は事実上決定されている。したがって中学校における進路指導の拡充はきわめて重要な意味をもつものである。

イ 就職者はもちろん、高等学校進学者も入学時において進路は分化する。

就職者について、職業安定課の従業者の移動調査によれば、就職1年以内に離職した者は、県内において中卒者は11.6%、高卒者は13.7%にのぼっている。県外就職者の分についてはあきらかでないが、全国平均によってみると、県外就職者のうち1年以内に離職した者は、中卒者は20.5%、高卒者は22.4%にのぼるものと推定される。

ウ 高校進学者についてみると、生徒の能力、特性の配慮が乏しいことがうかがわれ、また普通科偏重の傾向がつよく、学科別募集定員の比率からみても普通科が職業科より大きい。

入学者の入学選抜学力検査の得点分布を見ると、高等学校の教育課程を履習する能力があるとは考えられない者にまで分布している。

学科別にみると、普通科の卒業者中就職者は5.6%に達し、工業科を履習すべきであったと考えられる技能工、生産工程従事者となっている者が約20%、農業科コースを選ぶべきであったと考えられる農林業従事者となっている者が3%弱、販売、運輸通信、サービス業務従事者、採鉱、採石、単純労働者にまで分布している。